

全員完走 自己ベスト更新続出

風に向かって



意気揚々春の強風に向かって

第15回はぐるまマラソン

(二月二十七日 於多摩川サイクリングロード)

全ての仲間がベストを尽くした、すばらしい大会になりました。毎日なんて走るんだろう！ 苦しいマラソンはいやだな！

こんな吹きが一気に吹き飛び、達成感に満ちすがすがしさを体感したと思います。

賞状を澤理事長からいただくときの顔は、自信に溢れ、本当にたくましい仲間達でした。

実は、はぐるまのマラソンの歴史は、25年前から始まっているのです。

ホーム生活で起床後すぐに、体を目覚めさせる散歩から始まり、体力がついた仲間は、マラソンへと変化していきました。

ここが「はぐるまマラソン」の起源になっています。「健康である」事の喜びは、仲間達のためな努力の上であり、待つていて手に入るものではありません。これからの人生の大きな貯金をしているのだと思います。



No.37

2008年3月7日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

今回この活動に賛同を頂き、力を貸していただきました方々に、この紙面を借りて、お礼と、報告をさせていただきます。

中野島中学校前「走根寮」より
箱根駅伝に挑戦する國學院大學

4人の選手の皆さんへ

脅威的な走りを見せ、自己新記録を出した仲間達への影響は大きかったと思いますが、それ以上に、体力の衰えを心配していた仲間が、風のように走るあこがれの選手の皆さんと、走ることを共有していることで、



「精一杯」を
発揮できたこと
の影響力のほう
が大きかったと
思います。

《権名 一郎さんの保佐人・梶谷さんへ》

何か遠い存在に思われがちな司法書士の梶谷さんと一緒に強風に立ち向かい、走らせていただき「僕のことを心配して応援してくれる人なんだ」と、思いっきり良いところを見せようと頑張ることができた権名君です。

四十歳を過ぎて自己ベスト更新です。

《仲間たちの良き相談相手

トランサイドのおやじさん 横渡さんへ》

冷たい風の中なんて走らなきゃならないんだよとは言わずに、いつも黙々と仲間達の目線で参加して下さってありがとうございます。仲間への温かい支援は理屈ではなく、喜びも悲しみも一緒に行動して共感できるものと必死に走る姿から胸打つものがありました。いつまでも一緒に走ってください。

《梶谷さんからのメッセージ》

権名君、自己ベスト更新おめでとう》

寒い風の吹く中なのに、仲間の木島君と一緒にコンスタントに走り抜きましたね。私も、たくさんの方と、景色を楽しみながら、あつとつという間にゴールでした。

これなら権名君、20キロ、ハーフマソンも夢ではありません。多摩川沿いには、いくつかのマソン大会がありますから、是非チャレンジしましょう。3月2日の三浦ハーフマソンでは、去年よりずっと良いタイムでした。きつと、はぐるまの会の皆さんの頑張りを目の当たりにしたから

です。素敵なお土産もいただき、ほんとうにありがとうございました。

《はぐるまマソン大会に参加して》

■学院大学経済学部3年陸上競技部

長距離ブロック主務前田憲治さん他3名のインタビュ-

「仲間は元気があつて、一緒に走った私もたくさん元気をもらいました」

「走り終えた後でもまだ走っている仲間の応援や手伝いをしている姿を見て、全員で頑張る気持ちが前面に出ている、われわれも見習うところが沢山ありました」

「想像以上に速くてびっくりしました。来年も一緒に走りたいです」

「仲間と走ってみて、最後までやりぬく・完走することの大切さを改めて実感しました。」

一日ありがとうございました

- 10キロエントリー 38名
- ・ランニングの部 27名
- ・ウォーキングの部 11名
- 5キロウォーキング 2名
- 3キロウォーキング 2名

自己新記録

10キロの部 15名
はぐるま最高タイム
41分47秒



賞状は僕らの誇り ↑



← トン汁作りでバックアップ
ホーム職員会

《おわりに》

周りの物理的条件や学習(練習)の機会によつて、仲間達の能力は発達していきます。

今後目指したいことは、

ある必要な機能が単に早く発達するのではなく、今回のマソン大会のように本人にあつた速度で発達を促してあげたいと感じました。(カメラレンズを通しての記)

最後になりましたが、保護者はじめ皆様の応援に對して、心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。(職員一同)